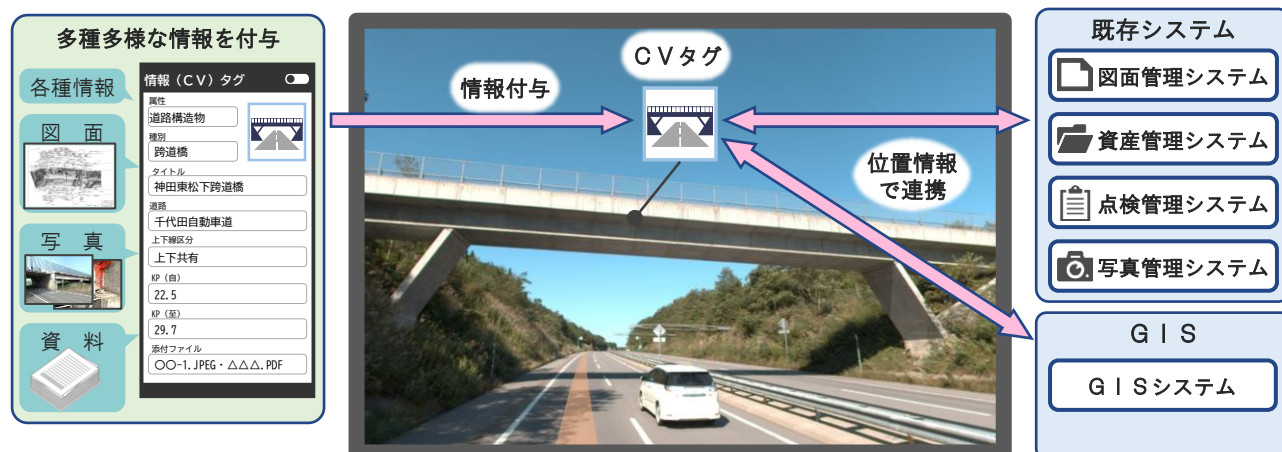


概要

全周囲映像システムは360°の映像を使用した「位置情報提供プラットフォーム」

CV演算技術を用いて、3次元情報を保有した360°の歪みのない映像を提供し、映像ならではのWEB配信とスムーズな情報共有を実現します。また、映像上に情報タグ（CVタグ）を登録し、多様な情報を効果的に管理でき、GISや既存システムと位置情報を連携することで、高度な情報整合性を確保します。

CVタグを活用した整備効果

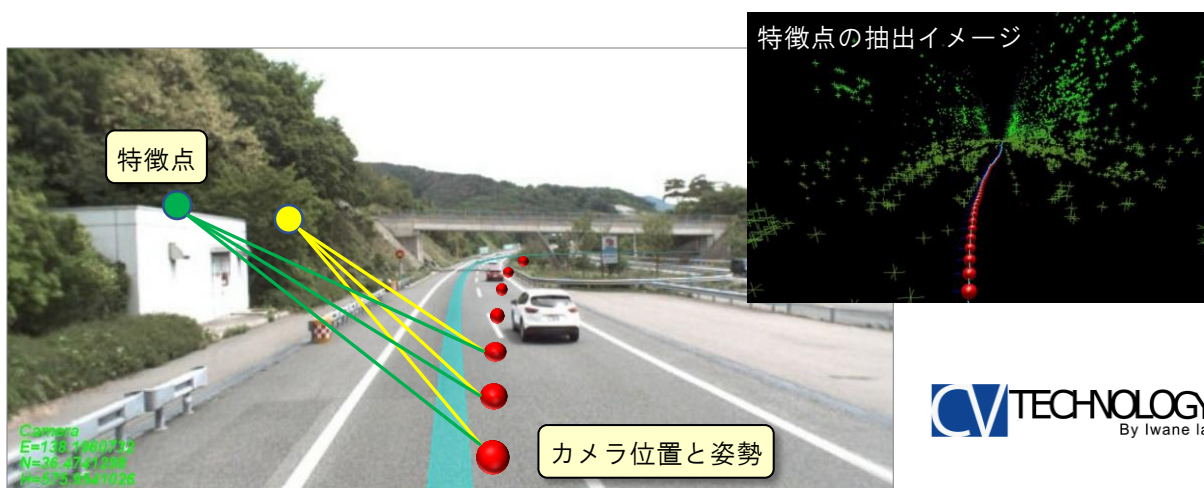


- ・実際の情報を視覚的に確認
- ・実在する目的物に関する情報を一元管理
- ・現地と各種システムの不整合を解消

技術概要

CV演算技術とは、カメラ映像のみを使用した位置特定技術

1秒あたり16フレームの速さで撮影された映像の各フレームから、約300の特徴点を自動的に抽出し、それらの特徴点を利用して各フレームごとにカメラの動き・姿勢を計算します。この技術により、2次元の映像から3次元位置情報を保有した映像を生成します。



主な機能

CVタグ登録機能

映像内に3次元位置情報を持った情報タグ（CVタグ）登録します。CVタグには名称をはじめ様々な情報やメモ、写真等のデータを保存することができます。

計測機能 ※計測誤差（相対誤差）10m以内±5cm

点：映像上で指定した点の座標（緯度・経度・高度）が取得できます。

長さ：指定した地点間の長さを計測します。

面積：指定した3点以上で囲まれた範囲の面積を計測します。

高さ：指定した2点間の高さを計測します。



3Dモデル配置機能

映像内に3Dモデルを配置し、道路の交通規制等の配置や視認性を

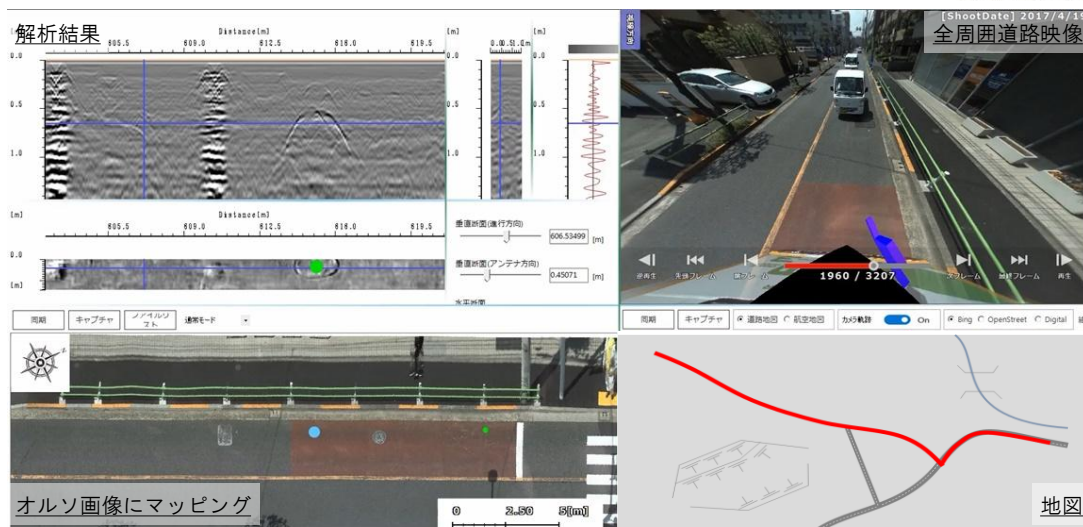
3次元や動画を使用した簡易シミュレーションができます。



拡張機能

地上・地中の状況を一元管理

全周囲映像システム（3Dビデオ管理システム）と連動した「GMS 3」では、路面のオルソ画像と映像により視覚的に探查結果を把握することができます。



GMS 3ビューア

AIを活用した地物情報の自動取得

3次元位置情報を保有した映像とAIを活用し、道路標識などの地物の種類や位置情報等を自動的に取得します。認識率は90%です。

